

本年度の日本学術振興会の特別研究員（RPD）に、本学の山口泰華・博士研究員が採用されました。RPD制度は、出産・育児で研究を中断した研究者が研究現場に復帰するのを支援する制度です。山口研究員は同じ研究者である夫と共に研究活動はもとより、3人の男の子の子育てに多忙な日々を送っています。

## 出産・子育てからの現場復帰.....

# 「研究継続のロールモデルに」

山口泰華研究員

日本学術振興会・特別研究員に採用

博士研究員としてRPDに採用されると、毎月一定の研究奨励金を受けながら、各受け入れ先機関で研究を行うことができます。期間は3年です。山口研究員は、2014年度に一度、熊本大学理学部を受け入れ先機関としてRPDに採用されています。2017年度からは、夫である田中聡教授（リハビリテーション学科長）が研究室を持ったのに伴い、本学に移り、共同研究員として研究に従事してきました。

今回のRPD申請は、現在小学1年の三男が学齢期になる直前に行っており、「未就学児を養育する女性および男性」という要件からして「最後のチャンス」でした。山口研究員は「（2回目の採用を受けられたことは）後に続く研究者たちに諦めずに研究活動を続けられるロールモデルを示すべき立場に立たせて頂いたという大きな使命感を感じつつ、純粋に研究活動を続けられる場を与えられたことについて感謝しています」と話します。

山口研究員の研究課題は、細胞内での物質の配置を変える輸送機構が、どのように生体の機能を調節しているのかということです。例えば、転写因子と呼ばれる遺伝子の発現を調節する因子は、細胞質で作られます。しかし、その転写因子が、標的遺伝子の発現を調節するには、DNAに結合するため核内に移動しなければ働けません。この転写因子等をカーゴ分子として細胞質—核間の物質輸送を担う輸送体がImportinです。研究対象としているImportin13は、そのような輸送体のひとつで、Importin13により特定の転写因子（ARX）が遺伝子変異等により輸送できなくなると、てんかんを伴う精神遅滞や重度脳形成障害の滑脳症等の症状を示すことが知られています。現在、山口研究員は、博士過程在籍中に留学していたシドニー大学の連携大学院であるオーストラリア小児医療研究所のPatrick Tam教授との共同研究で、Importin13を欠損したマウスの機能解析を本学で行っています。

研究室では一研究者として研究活動に励み、帰宅すれば母としてやんちゃ盛りの息子たちの面倒を見る日々ですが、「細胞質と核の間を行き来して適材適所に分子を運んで細胞を正常に分化させるImportin13のように、研究を続けながら子供達をしっかりと育てていきたいと思えます」と前向きです。本年度はRPD採用以外に、日本私立学校振興・共済事業団の若手・女性研究者奨励金にも選ばれました。



「将来は研究だけでなく教育にもかかわりたい」と話す山口研究員

### ◆特別研究員—RPD制度

優れた研究者が出産・育児による研究中断後に円滑に研究現場に復帰する環境を整備するため、一定期間、研究奨励金を支給する日本学術振興会の制度。期間は3年。2022年度は193人が申請し、53人が採用された。採用率は27.5%。

本年度、本学に赴任した教員の皆さんの研究内容を紹介します。



本田 啓太  
リハビリテーション学科  
理学療法学専攻講師

専門領域は身体運動のバイオメカニクス研究です。脳卒中後遺症に起因する歩行パターン変化と歩行不安定性の関係を明らかにすることで、歩行時に好発する転倒の発生機序の解明に取り組んできました。

また、前職では、企業と大学の産学連携を通して、日常生活動作の支援機器や評価システムの開発に従事しました。今後は、培ってきた知識と経験を活かし、スポーツ動作のパフォーマンス向上や障害予防に貢献する研究を計画しています。



久保下 亮  
リハビリテーション学科  
理学療法学専攻講師

私の研究テーマは2つあります。1つ目は、競技用車いすを使用した競技における車いすのダッシュや旋回力の技術といった車いす操作能力（チェアワーク）をバイオメカニクスの側面から解析し、効率的なチェアワークを障害レベルや競技特性に合わせて導き出したいと考えています。

2つ目は、発達障害児の運動協調性低下に対し、運動動作時の身体活動の特徴や動く物体に対して視線の動きや身体活動の特徴を解析し、運動協調性が低下した子どもたちに、どのような遊びを取り入れていくことが望ましいのか研究しています。

歩行転倒のメカニズム探る

車いすの操作能力を解析

学生の眼

心に余裕をもって

医学検査学科1年 鳥谷 紗生

毎日の大学生活を通して考えていることは、いかに学校で楽しいと感じる時間を過ごすか、ということです。私は本を読むことが好きです。だから、どうやったら図書館に多く足を運ぶことができるかということを考えます。毎日のランチも気になりますから、学食を最高に楽しむにはどうしたらいいだろう、なんてことも考えます。

物事を楽しく感じるには、心に余裕がある事が必要だと思います。心の余裕を得るために、私には心掛けたいと思って



いることがあります。それは、課題や提出物を早めに終わらせることです。とはいえ、のんびり屋の私にとって早く物事を終わらせるということは、永遠の課題でもあります。

私が「学生広報スタッフ」に参加したのも、何となく楽しそうだな、少し難しいけど楽しく挑戦できそうだな、と思ったからです。皆さんもぜひ、心に余裕をもって、「楽しい！」と感じられるものを見つけてくださいね。(アカデミックスキル支援センター・学生広報スタッフ)

今年度1回目のTOEIC L&R IPテストを7月に予定しています。受験方法は①マークシート方式と②オンライン方式から選べます。

①マークシート方式（対面によるペーパー試験）

日時：7月10日（日）13:30-15:30

会場：1号館1304講義室M

試験時間：2時間（リスニング45分、リーディング75分）

②オンライン方式（パソコン、iPad使用）

日時：7月9～10日（48時間）

会場：受験者の自宅

試験時間：約1時間（リスニング25分、リーディング35分）

※受験者の解答に合わせてテスト問題の難易度が変化する適応型のため、少ない問題数（=短時間）で受験者の能力（スコア）を算出することが可能になりました。

受験料は①②ともに4,040円（団体申込み割引価格）です。教職員の皆さまもお申込みいただけますので、この機会にぜひ挑戦してみてくださいはいかがでしょうか？

申込み・問い合わせ先  
共通教育センター 森友子  
tmori@kumamoto-hsu.ac.jp

今週の1枚

見慣れた？風景



学内のいたるところで目につくソーシャルディスタンスを呼びかける表示板。新型コロナとの戦いも3年目になると、非日常的な風景が見慣れたものとなっています。楽しくおしゃべりしながらランチしていた日々は、いつ戻るのでしょうか。

